

問題 A

問 1. 正しい組み合わせはどれか選びなさい

- a. 2015年(平成25年)の高齢化率は25%を超えた
- b. 65歳～74歳までを前期高齢者という
- c. 要介護度の区分は要支援が5段階、要介護が2段階である
- d. 二次予防とはポピュレーションアプローチのことである
- e. 一次予防とはハイリスクアプローチのことである

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問 2. 地域包括ケアシステムの構築について、正しい組み合わせを選びなさい

- a. 医療職が地域の介護予防に関与することは望ましくない
- b. 住民主体の介護予防・生活支援が望まれている
- c. 地域包括ケアシステムの構築に向けて地域ケア会議を行う
- d. NPOは地域ケア会議に参加することができない
- e. 2050年を目途に目標設定されている

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問 3. 認知症診断に用いられる検査として、正しい組み合わせを選びなさい

- a. 長谷川式簡易認知機能検査
- b. Minimenta State Examination (MMSE)
- c. 脳MRIまたはCT
- d. 脳血流SEPECT
- e. MIBG心筋シンチグラム

1. a, b, c 2. a, c 3. b, d 4. c, e 5. すべて

問 4. 正しい組み合わせを選びなさい

- a. 介護度が高い人は介護者がかかわっているので栄養状態は比較的よい
- b. 嚥下機能の低下、褥瘡、誤嚥性肺炎の既往がある高齢者に低栄養が多い
- c. 在宅療養高齢者の3割に栄養状態の問題がある
- d. 摂食嚥下障害によるQOL・ADLの低下は栄養管理上のリスクとはいえない
- e. 嚥下や身体機能に合わせた食形態の工夫や姿勢保持など専門職の連携が大切である

1. a, b 2. b, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問題 A

問 5. 介護予防事業について正しいものはどれか選びなさい

1. リハビリテーション専門職の地域における介護予防への関与が期待されている
2. 75歳以上の高齢者を対象としている
3. 事業評価をすることは規定されていない
4. 閉じこもり気味の高齢者はそっとしておくことが重要である
5. 積極的な予防活動よりも安静治療を重視するよう強調された事業である

問 6. オーラルフレイルの説明で間違っているものを選びなさい

1. 口腔機能の衰えの早期発見が狙いである
2. 地域在住高齢者の約15%が該当すると推定されている
3. 8020運動の後継の普及啓発である
4. 滑舌の低下はオーラルフレイルには含まれない
5. 要介護状態の引き金になり得る

問 7. スクリーニング検査の説明で間違っているものを選びなさい

1. 感度とは疾患のある人を正しく陽性と判定する割合である
2. 特異度とは疾患のない人を正しく陰性と判定する割合である
3. 陽性反応的中度とは陽性と判定された人で実際に疾患を有する割合である
4. 陰性反応的中度とは陰性と判定された人で実際に疾患がない割合である
5. 治療法がない疾患はスクリーニング検査をすべきである

問 8. サルコペニアの原因・疾患の組み合わせで間違っているものを選びなさい

1. 原発性サルコペニア----癌
2. 二次性サルコペニア----活動・栄養・疾患
3. 四肢体幹筋のサルコペニア----転倒・寝たきり
4. 嚥下筋のサルコペニア----摂食嚥下障害
5. 呼吸筋のサルコペニア----呼吸障害

問 9. 不顕性誤嚥による肺炎について、適切でないものを1つ選びなさい

1. 嚥下反射・咳反射の低下した老人の場合、睡眠中には約50%の方にみられる
2. 嚥下と咳の反射を改善させることは、誤嚥予防(誤嚥性肺炎の予防)につながる
3. 就寝時に上半身を軽度挙上しておくことは予防に効果がある
4. 口腔内の常在細菌量を減らすための口腔ケアは、予防につながる
5. 睡眠中など、本人の自覚がないうちに唾液などが気管に吸引されることが原因となる

問題 A

問 10. 高齢者に多くみられる病態に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

1. 脱水になると、脈拍が少なくなる。
2. 老人性難聴では、低音領域から聴力が低下する。
3. 甲状腺機能低下症は、浮腫の原因となる。
4. 栄養過多は、褥瘡の発生要因になる。
5. 葉酸が不足すると、味覚障害が生じる。

問 11. 肢体不自由となる疾患に関する次の記述のうち、最も適切なものを選びなさい

1. デュシェンヌ型筋ジストロフィーでは、呼吸困難が初発症状である。
2. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)は、運動失調を主体とする変性疾患である。
3. 脊髄損傷では、排尿障害が起こりやすい。
4. 分娩時の高酸素血症は、脳性麻痺の原因となる。
5. 遺伝性の脊髄小脳変性症では、歩行障害は起こらない。

問 12. 廃用症候群に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

1. 関節拘縮は起こりにくい。
2. 筋の萎縮は起こりにくい。
3. 高齢者では起こりにくい。
4. 起立性低血圧が起こりやすい。
5. 急性期リハビリテーションで離床を早期から行うことで起こりやすい。

問 13. 人体の構造と機能に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

1. アルブミンは酸素の運搬にかかわる。
2. ヘモグロビンは感染の防御にかかわる。
3. 平滑筋は随意的に収縮できる。
4. 気管は食道の後方に位置する。
5. 横隔膜は呼吸にかかわる。

問 14. 人体の部位と病変に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

1. 変形性関節症が頻発する部位は肘関節である。
2. 高齢者では、手をついて転倒しておきる骨折は上腕骨に多い。
3. 側臥位では仙骨部に褥瘡ができる。
4. 対麻痺とは左右両側の下肢の麻痺である。
5. 脳死とは脳幹以外の脳機能の不可逆的な停止をいう。

問 15. 高齢者にみられる病態の特徴に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい

1. 皮膚の湿潤は褥瘡の発症リスクとなる。
2. フレイル(虚弱)は慢性疾患の終末期の状態である。
3. 感音難聴は低い音から聞こえにくくなる。
4. 変形性膝関節症は、廃用症候群に属する。
5. 記憶障害では、短期記憶よりも長期記憶が低下する。

問 16. レビー小体型認知症に関する次の記述のうち、最も適切なものを選びなさい

1. 米国人によって提唱された疾患である。
2. レビー小体は主に脊髄に蓄積する。
3. 臨床診断に用いる中核的症狀にパーキンソン症状がある。
4. 幻覚症狀のなかでは幻聴が最も多い。
5. 前頭側頭型認知症とも呼ばれる。

問 17. 正しいものを選びなさい

1. 経鼻胃管や胃瘻での栄養管理の場合、誤嚥性肺炎は起きない。
2. 仰臥位では食道が上、気管が下という位置関係になるので、座位に比べ誤嚥をおこしやすい。
3. 咀嚼は脳血流量の増加に関与する。
4. 嚥下音の聴取は、咽頭残留の判断材料にはならない。
5. 経管栄養は下痢や便秘をおこしにくい。

問 18. 肺炎で長期臥床した場合の合併症として誤っているものを選びなさい

1. 筋力低下
2. 嚥下性肺炎
3. 骨粗鬆症
4. 無気肺
5. 高血圧

問 19. レビー小体型認知症について正しいものを選びなさい

1. 幻視が現れた際は、正しい状況を把握させるため、幻視で見えているものを否定することが望ましい
2. 美味しく見せるため、ご飯にはふりかけをかけるとうい
3. 幻視が出現することは稀である
4. テーブルクロスは無地を選ぶとうい

問 20. 下記の内容のうち正しいものを選びなさい

1. 嚥下に関する皮質中枢は頭頂葉にある
2. 末梢性の顔面麻痺では額のしわ寄せが可能である
3. 一侧の軟口蓋麻痺では口蓋垂は患側に引かれる
4. 大脳基底核を含む内包型病変では、咀嚼や舌運動速度の低下がみられる
5. 脳幹病変による嚥下障害では注意力・集中力低下が問題となる

問 21. 次の組み合わせについて誤っているものを選びなさい

1. 延髄梗塞----球麻痺
2. 内包----片麻痺
3. 大脳基底核----運動失調
4. 多発性脳梗塞----仮性球麻痺
5. 橋梗塞----交代性片麻痺

問 22. 組み合わせとして正しいものを選びなさい

1. 運動性失語----流暢には話すが、会話や文章による言葉の理解が悪い
2. 観念失行----ハーモニカをみても何かわからないが、音を出すとハーモニカとわかる
3. 半側身体失認----主に左側の身体に関心がなく認識ができない
4. 構成失行----麻痺はないのに協調運動の障害により、目的とする運動がうまくできない
5. 視空間失認----見えていなのに見えているとふるまう

問 23. 平成23～24年に実施された認知症の疫学調査によると、65歳以上の高齢者の認知症罹患率は以下の数字のどれに近いか

1. 5%
2. 10%
3. 15%
4. 20%
5. 30%

問 24. 進行したレビー小体型認知症(レビー小体病)の食行動異常にはどのようなものがあるか、組み合わせを選びなさい

- a. 過食
- b. 口に詰め込む
- c. 箸が上手に使えない
- d. 食嗜好の変化
- e. 嚥下障害

1. a, b, c
2. a, c
3. b, d
4. c, e
5. すべて

問題 A

問 25. 初期の前頭側頭葉変性症(前頭側頭型認知症)の食行動異常にはどのようなものがあるか、組み合わせを選びなさい

- a. 食嗜好の変化
- b. 食べたことを忘れる
- c. 落ち着いて食べない(立ち去り行動)
- d. 食器の使い方がわからない
- e. 箸が上手に使えない

1. a, b, c 2. a, c 3. b, d 4. c, e 5. すべて

問 26. 現在、我が国の医療保険で認められているアルツハイマー型認知症治療薬の組み合わせはどれかを選びなさい

- a. リバスチグミン貼付剤+メマンチン
- b. ガランタミン+メマンチン
- c. ドネペジル+メマンチン
- d. 脳代謝賦活剤+メマンチン
- e. 脳血管拡張剤+メマンチン

1. a, b, c 2. a, c 3. b, d 4. c, e 5. すべて

問 27. フレイルのCHS基準に含まれるものはどれか、組み合わせを選びなさい

- a. 筋力低下
- b. 体重減少
- c. 発汗
- d. 発熱
- e. 転倒・骨折

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問題 B

問 1. 摂食嚥下障害患者との関わり方について正しいものを選びなさい

1. 食べ物の見た目や嗜好よりも、いかに食べやすい食事であるかを最優先で考慮すべきである
2. 食べることへの目標を患者と共有し、そのためにどのような訓練を行っていくか説明する
3. 失行症状がみられる場合は積極的に声掛けを行う方が良い
4. 脱感作は順に口腔マッサージ、頬のマッサージを行い、肩や手に触れていく

問 2. 次の脳血管障害による嚥下障害で、関連する脳神経、アセスメント、可能性のある摂食嚥下障害の組み合わせで誤っているものを1つ選びなさい

- a. 顔面神経----顎による上下、回旋運動不可----開口障害
- b. 舌下神経----舌偏位、奥舌音不明瞭----舌口蓋閉鎖不全
- c. 舌咽神経----発声時軟口蓋挙上なし----鼻咽腔閉鎖不全
- d. 三叉神経----口角が下がる----口唇閉鎖不全
- e. 迷走神経----酸っぱい液が喉に戻ってくる----胃食道逆流

1. a, d
2. b, c
3. b, e
4. d, e

問 3. 誤嚥性肺炎を予防するための対応方法として誤っているものを選びなさい

1. 食事場面において、嚥下機能・食形態・食べ方・量をチェックする
2. 嚥下機能に影響する薬剤を服用していないか把握する
3. 口腔ケアを就寝前だけに行う
4. 全身運動や口腔の運動を行い、日中の活動性を改善する

問 4. 嚥下運動の期の順序で正しいものを選びなさい

1. 先行期→口腔期→咽頭期→食道期→準備期
2. 準備期→先行期→咽頭期→口腔期→食道期
3. 先行期→準備期→口腔期→咽頭期→食道期
4. 準備期→口腔期→咽頭期→食道期→先行期
5. 咽頭期→準備期→先行期→口腔期→食道期

問 5. 高齢者の嚥下の問題について誤りを選びなさい

1. 塩味・苦味の域値上昇
2. 唾液腺の萎縮
3. 喉頭の低位化
4. 嚥下－呼吸の協調性の向上
5. 咳嗽反射の低下

問題 B

問 6. 正しい組み合わせを選びなさい

- a. 顎二腹筋----下顎を引き下げて開口する
- b. 顎二腹筋----嚥下時に舌骨を引き下げる
- c. 茎突舌筋----嚥下時に舌骨を引き下げる
- d. 茎突舌筋----嚥下時に舌骨を引き上げる

1. a, b 2. a, d 3. a, c 4. b, c 5. b, d

問 7. 誤嚥性肺炎について正しいものを選びなさい

- 1. 高齢者の誤嚥性肺炎は、発熱・咳嗽・喀痰など典型的な症状を呈することが大多数である
- 2. 呼吸数は誤嚥の評価の際、それほど重要ではない
- 3. 食事を開始すると再度誤嚥するので、食事は控えた方が良い
- 4. 診断にはしばしば画像診断が用いられるが、肺炎の所見が乏しい場合がある
- 5. 高齢者が誤嚥性肺炎を起こすと、全ての症例で高熱が出る

問 8. 摂食・嚥下障害の原因となりにくいものを選びなさい

- 1. 舌炎
- 2. 重症筋無力症
- 3. 食道がん
- 4. ギラン・バレー症候群
- 5. クッシング症候群

問 9. 脳卒中急性期の摂食・嚥下に関するもので正しいものを選びなさい

- 1. 脳卒中では急性期よりも回復期に嚥下障害の発症率は増加する
- 2. 嚥下障害は肺炎のリスクと関連し、転帰不良や死亡のリスクを増大させる
- 3. 脳卒中急性期は低栄養になることを避けるためにできるだけ早期に経口摂取を開始し、誤嚥が疑われれば嚥下評価を行うとよい
- 4. 脳卒中急性期は嚥下機能回復リハビリテーションを行うよりも、経鼻胃管(NGチューブ)による栄養管理の方が安全であり、推奨されている
- 5. ムセが無ければ、嚥下障害はないものと判断される

問題 B

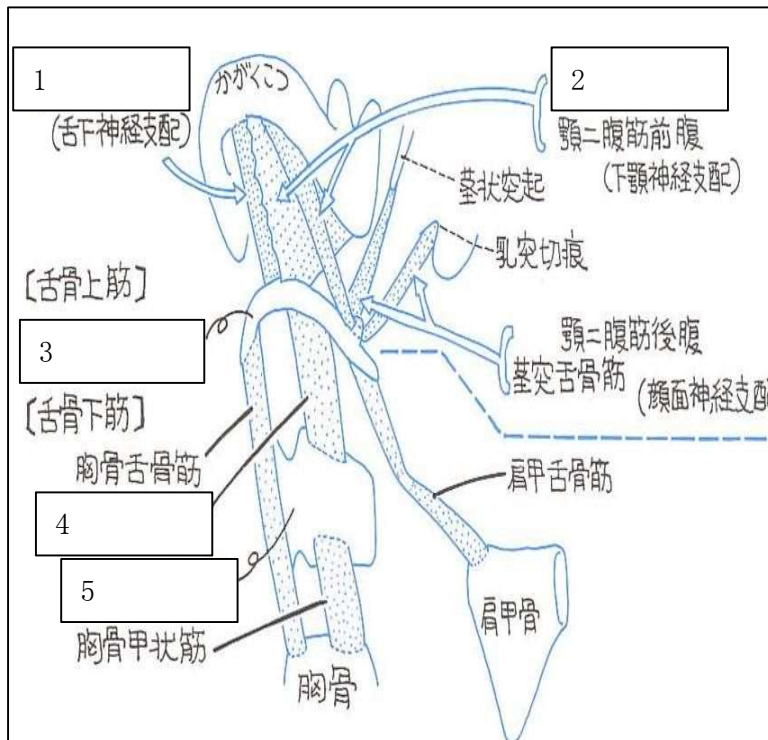
問 10. 脳血管障害による嚥下障害で誤っているものを選びなさい

1. 脳幹病変の場合は高率に嚥下障害をきたす
2. 脳卒中急性期は嚥下障害の有無に関わらず、経鼻胃管 (NGチューブ) による栄養管理から開始することが勧められる
3. 脳卒中患者の飲食や経口薬を開始する前に嚥下評価を行うことが勧められる
4. 大脳半球の脳血管障害の場合は、一側性の場合でも嚥下障害が起こりうる
5. 脳卒中後嚥下障害を有する患者には、誤嚥性肺炎予防として抗菌薬投与が推奨されない

問 11. 舌について誤っているものを選びなさい

1. 舌は舌体・舌根ともに随意運動が可能である
2. 咀嚼された食塊を口腔内で唾液と混和する
3. 形成された食塊を咽頭に送り込む
4. 味覚やその他の感覚の受容器である
5. 複雑な構音に寄与する

問 12. 下記の解剖図の空欄に正しい名称を記入しなさい



問題 C

問 1. 嚥下訓練開始の条件で誤っているものはどれか選びなさい

1. むせを訴えなければ開始する
2. 意識が鮮明である
3. 意志の疎通が図れる
4. 口から食べたいという意欲がある
5. 自力で空咳ができる

問 2. 各嚥下テストの説明で誤っているものを選びなさい

1. 改訂水飲みテストは3mlの冷水を口腔底に注ぎ、嚥下させる
2. 100ml水飲みテストは、改訂水飲みテスト、食物テストより感度が良い
3. 食物テストはティースプーン1杯(3～4g)のプリンを口腔底に置き、嚥下させる
4. 100ml水飲みテストは座位で行う
5. 反復唾液嚥下テストの評価で、30秒間に2回以下の場合には嚥下開始困難が疑われる

問 3. 摂食機能療法が算定できない職種はどれか選びなさい

1. 看護師
2. 介護福祉士
3. 理学療法士
4. 作業療法士
5. 歯科衛生士

問 4. 誤っている組み合わせはどれか選びなさい

1. しゃっくり---嚥下パターン訓練
2. 鼻腔への逆流---舌尖挙上訓練
3. 嚥下筋のリラクゼーション---嚥下体操
4. 唾液の減少---唾液腺のアイスマッサージ
5. 口腔残留---交互嚥下

問 5. 嚥下内視鏡検査の説明で誤っているのはどれか選びなさい

1. 嚥下機能全体を評価できる
2. 検査食には着色水を用いることが多い
3. 器質的および機能的異常の有無も観察する
4. ベッドサイドでの施行が可能である
5. 誤嚥に対応して吸引や酸素の準備が望ましい

問 6. 飲食物を口に入れたら鼻から大きく息を吸って、しっかり息をこらえて飲食物を飲み込み咳払いをする、あるいは口から勢いよく息を吐き出す。この嚥下代償法を何というか。

1. 交互嚥下
2. 横向き嚥下
3. うなずき嚥下
4. 息こらえ嚥下
5. 複数回嚥下

問 7. 直接嚥下訓練はどれか選びなさい

1. 嚥下おでこ体操
2. ブローイング訓練
3. カラオケ
4. アゴ持ち上げ体操
5. スライスゼリー丸のみ方

問 8. 摂食・嚥下リハビリテーションについて誤っているものを選びなさい

1. 摂食・嚥下リハビリテーションと並行して取り組むべきことは口腔ケアの徹底、栄養状態を改善させること、離床を進めることがあげられる
2. 先行期障害の対応には、病態の見極めはあまり重要ではない
3. 食道入口部開大不全に対し、バルーン拡張法は有効である
4. 臥床状態が続くと咽頭挙上障害を来すことがある
5. 適切な摂食・嚥下リハビリテーションを行うためには、機能評価が重要である

問 9. 栄養や摂食・嚥下機能評価に関する検査でないものを選びなさい

1. 反復唾液飲みテスト(RSST)
2. 改訂水飲みテスト
3. MNA-SF
4. TUG
5. フードテスト

問 10. 代償的アプローチ方法として誤っているものを選びなさい

1. 食形態の調節
2. 姿勢の調整
3. 一口量の調整
4. 咽頭冷圧刺激

問題 C

問 11. 正しければ○、間違っていれば×を回答欄に書きなさい。

- 11-1. 頸部聴診は確定診断ではなく、嚥下障害のスクリーニング、または症状の確認等に用いるものである
- 11-2. 高齢者では代謝が亢進するため低栄養が生じやすく、リハビリテーションは積極的に行うべきではない

問題 D

問 1. ベッド上で全介助を要する人の口腔ケアの基本的留意点として、最も適切なものを選びなさい

1. 洗口剤を使用して、歯垢を除去する
2. 仰臥位で行う
3. 義歯をつけたまま行う
4. 硬い毛の歯ブラシを使う
5. 舌の汚れを取り除く

問 2. 口腔ケアについて、適切でないものを選びなさい

1. 口腔内の清掃は、機械的清掃法より化学的清掃法が効果的である
2. 高齢者は歯と歯の間隙が大きくなるので、むし歯や歯周病になりやすい
3. 総義歯を装着している場合、歯がなくても口腔ケアは必要である
4. 経管栄養の場合、唾液分泌の減少による自浄作用の低下のため、口腔内は不衛生になりやすい
5. 目的は、口腔機能の保持により、QOLとADLの維持・向上を図ることである

問 3. 正しければ○、間違っていれば×を回答欄に書きなさい。

- 3-1. 姿勢を整えるのは口腔ケアが終わり、食事開始前である
- 3-2. 直接訓練時、口腔内汚染が著明で訓練に影響が出ると判断したので、直接訓練後に歯科衛生士に口腔ケアを依頼することとした
- 3-3. 咬反射や過敏症状などがある場合、口腔ケアを先にするよりも、脱感作や歯肉マッサージをしっかりと行い、関係性を構築していくことが望ましい

問 4. 必要栄養量の算出で誤っているものを選びなさい

1. 総エネルギーは基礎代謝量×活動係数×ストレス係数で求められる
2. たんぱく質は現体重×1.2～2.0で求められる
3. 脂質は総エネルギーの20～25%である
4. 高齢者は低栄養の場合が多いのでたんぱく質の制限は必要ない
5. 栄養量は1度算出したあとも途中で必ずモニタリングしなければならない

問題 D

問 5. 嚥下調整食について間違っているものを選びなさい

1. 安全で美味しく食べるには、嗜好や嚥下状態に応じた食物形態の選択が重要である
2. 嚥下調整食学会分類 2013 は食形態の共通のものさしとして使用できる
3. 嚥下訓練食0j・0tは低栄養改善のため栄養価が高たんぱく質を多く含むものがよい
4. 嚥下訓練食1j は均質ななめらかさで離水が少ないゼリー・プリン・ムース状のものである
5. 嚥下訓練食2は管から胃に注入するミキサー食でなくスプーンですくうようなものである

問 6. 誤嚥しやすい食品とその対応で間違っているものを選びなさい

1. 水、お茶等などの水分 → 薬のみで飲ませる
2. 食パンなどパサパサしているもの → 卵、牛乳など水分を含ませる(フレンチトースト)
3. 竹の子、もやしなど繊維の多いもの → 基本的に食材として用いない
4. のり、ワカメなど付着しやすいもの → 軟らかく煮て固める
5. ゆで卵、ふかし芋など詰まりやすいもの → マヨネーズやバターなど油分を利用する

問 7. 加齢に伴う身体機能の変化に対応した食事として、適切なものを選びなさい

1. 味覚の低下に対しては、塩分や糖分を多く用いる
2. 吸収機能の低下に対しては、炭水化物を中心とした食事を基本とする
3. 唾液分泌の低下に対しては、パンを主食にする
4. 咀嚼力(そしゃくりょく)の低下に対しては、肉料理を控える
5. 腸の蠕動(ぜんどう)運動(うんどう)の低下に対しては、乳酸菌を含む食品を積極的に取り入れる

問 8. 食事介助の基本として、最も適切なものを選びなさい

1. 介助者に向けて食事を並べる
2. 立って介助する
3. 初めにお茶や汁物で口の中を湿らせてもらう
4. 主菜を食べ終えてから、主食を食べってもらう
5. 全介助の場合は、2～3口ごとに飲み込んだことを確認する

問 9. 高齢者に対する食事の工夫で、適切でないものを選びなさい

1. 落ちついた雰囲気にする
2. 好みの食器があればそれを使用する
3. 調理は高齢者が食べやすい軟らかさ・大きさにする
4. 暖かいものや冷たいものにメリハリをつけ、すべて薄味にすると良い
5. きざみ食や流動食の時は、素材別にペースト状にすると、食欲の減退予防につながる

問題 D

問 10. 食事形態の選択として正しいものの組み合わせを選びなさい

- a. 食塊形成が困難なので、きざみ食を選択した。
 - b. 口腔から咽頭への送り込みが困難なので、ミキサー食を選択した。
 - c. 咽頭残留があるので、トロミを強めにした。
 - d. 食器の使用が困難なので、手づかみで食べられる形態にした。
 - e. 早食いになっているのでムース食から一口大の軟採食へ食事形態をアップし、咀嚼運動を引き出した。
1. a,b 2. a,c 3. b,c 4. d,e 5. b,e

問 11. 間違っているものを選びなさい

1. 先行期に問題があり食事摂取が進まない場合、食事の見た目や食事環境などを工夫することにより改善が認められる事がある。
2. 先行期障害への対応として、メガネの装着は関係ない。
3. 準備期、口腔期に問題がある場合、食材はある程度の硬さとボリュームがあるほうが反射が出やすい。
4. 口腔期障害への代償法として、体幹を後方へ倒し、重力を利用する方法がある。
5. 咽頭期に問題がある場合、食材は滑らかで変形しやすく付着性の低い物が良い。

問 12. 嚥下障害における栄養管理について正しいものを選びなさい

1. 経管栄養ではチューブ先端の位置確認は重要視されない
2. 経口摂取が不可能であれば、早期に胃ろうを造設する
3. 嚥下機能低下、褥瘡や誤嚥性肺炎の既往がある高齢者には特に栄養介入の必要性がある
4. 経口摂取を中止することで、嚥下障害が改善する
5. 経鼻経管栄養チューブは胃ろうに比べて長期管理に適している

問 13. 栄養に関して誤っているものを選びなさい

1. 成人における低栄養の原因は、「飢餓」「悪液質」「侵襲」の3つに分類される
2. 低栄養はサルコペニアやフレイルの要因となる
3. 高齢者の低栄養の背景として、同居する人の減少や独居となり孤食になるケースが多いことが挙げられる
4. フレイルは心身の活動が低下し要介護状態の前段階であるが、適切な運動や栄養改善、あるいは社会参加を行うことで自立した状態に回復することが期待できる
5. 高齢者は飢餓状態でも、身体機能を高めるために積極的なトレーニングを行うのが望ましい

問題 D

問 14. 食事環境・姿勢について正しい組み合わせを選びなさい

- a. 注意障害や認知機能の低下などにより食事に集中できない場合は、カーテンで仕切って余計な刺激が入らないようにする
- b. 食物を流しやすくするために、頸部のみを伸展させる
- c. 足底部を安定させることにより、舌圧の上昇による咀嚼力の向上、咽頭期嚥下圧の低下、咽頭残留の減少につながる
- d. 食後すぐに仰臥位になると、胃食道逆流や逆流による誤嚥のリスクとなる

1. a○, b○, c×, d×
2. a×, b×, c○, d○
3. a○, b×, c×, d○
4. a×, b○, c○, d×

問 15. 脳出血の後遺症で左片麻痺と嚥下障害のある患者の家族に、食事介助の指導を行うときの説明で適切なものを選びなさい

1. 「食材にこんにゃくを入れると良いですよ」
2. 「体を起こしたら、左の脇の下をクッションで支えましょう」
3. 「口の左側に食べ物を入れるようにしましょう」
4. 「飲み込むときに咳が出なければ誤嚥の心配はありません」
5. 「会話を促しながら食べさせると良いですよ」

問 16. 安全な食事介助のテクニックとして正しいものを選びなさい

1. 嚥下できたか確認するため、スプーンを抜くと同時に「飲みこめましたか？」と声掛けをする。
2. 着衣や首回りが汚れないよう、顎の下の位置からきっちりとエプロンをかける。
3. 側臥位での食事介助の場合、健側を下にする。
4. スプーンで介助をする場合、ボール部の深いスプーンを選択する。
5. 水分にトロミを付ける場合、トロミが強い方が誤嚥しにくい。

問 17. 嚥下障害者のおやつで不適切なものを選びなさい

1. なめらかすてら
2. エンゲリード
3. みたらし団子
4. アイスクリーム
5. ヨーグルト

記述問題

- A-1 球麻痺と仮性球麻痺の違いについて説明しなさい
- A-2 交代性片麻痺について説明しなさい
- B-1 入院・入所してきた人に認知症が疑われる食に関する以外の症候を列記しなさい
- B-2 入所・入院中の人に認知症があると診断された場合の食支援にはどのようなものがあるか列記しなさい
- C-1 摂食・嚥下の最初の二期{口腔準備期、口腔期(嚥下第一相)}における口蓋帆(軟口蓋)の役割は何か？
- C-2 摂食・嚥下メカニズムについて、加齢による影響を喉頭運動の機能的変化から説明しなさい